

【1】 基礎調査

(参考) 沖縄県統計年報 第一集

1. 社会経済条件

渡嘉敷村、座間味村は、沖縄本島の那覇市の西方約30kmに位置し、渡嘉敷島（渡嘉敷村）、座間味島、阿嘉島（座間味村）を中心とする20あまりの島々から構成されている。主な交通手段は海路は那覇市の泊港よりフェリーが運行しており、渡嘉敷港までの所用時間は60分、座間味港までは90分である。また、座間味島ー阿嘉島間もフェリーが運行しており、所要時間は10分である。また、空路は那覇から慶良間空港間で運行されており、所要時間は15分である。

平成元年5月1日現在の人口は、渡嘉敷村が904人、座間味村が829人である。表-1に沖縄県全体及び渡嘉敷、座間味両村の産業別就業者数の内訳を示す。これからみると、沖縄県の経済構造は第3次産業が特化しているが、渡嘉敷村、座間味村の産業構成も同様である。しかしながら、就業者人口対比で水産業就業人口の割合をみると、沖縄県全体で0.9%程度であるのに対し、渡嘉敷村では5.9%、座間味村では5.4%となっており、水産業の占める割合は比較的高い。

表-1 産業別就業者数			
総 数	478,244	445,331	331
農 業	49,447	55	37
林 業	175	11	
漁 業	4,417	26	18
鉱 業	466		
建 設 業	66,787	74	37
製 造 業	32,554	7	1
電 気・ガス・水道業	3,199	7	1
運輸・通信業	30,103	24	32
卸・小売業、飲食店	120,564	45	24
金融・保険業	12,146		
不動産業	4,117		
サービス業	121,119	160	131
公 務	31,038	36	47
分類不能の産業	2,112		3

2. 自然条件

●気温・水温

沖縄本島南部の那覇における年平均気温（平年）は22.4°C、月別平均気温は1月に最低の16.0°Cとなり、最も高くなるのが7月の28.1°Cである。また、那覇港入口における昭和63年の平均水温は24.9°Cである。

表-2 月別平均気温（那覇 平年）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温 (°C)	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1

表-2 月別平均気温(那覇 平年)

沖縄県気象台

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)												
1	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1
2	16.4	16.8	18.4	21.4	24.1	26.4	28.4	28.1	27.4	24.6	21.6	18.5

水温(℃)												
1	22.4	22.2	22.1	22.8	24.1	26.6	28.9	28.9	28.5	26.3	23.9	21.7
2	22.2	22.0	21.9	22.8	24.0	26.4	28.8	28.7	28.3	26.1	23.7	21.5
3	22.0	21.8	21.7	22.6	23.9	26.2	28.7	28.6	28.2	26.0	23.6	21.4
4	21.8	21.6	21.5	22.4	23.7	25.9	28.5	28.4	28.0	25.8	23.4	21.2
5	21.6	21.4	21.3	22.2	23.5	25.7	28.3	28.2	27.8	25.6	23.2	21.0
6	21.4	21.2	21.1	22.0	23.3	25.5	28.1	28.0	27.6	25.4	23.0	20.8
7	21.2	21.0	20.9	21.8	23.0	25.3	27.9	27.8	27.4	25.2	22.8	20.6
8	21.0	20.8	20.7	21.6	22.8	24.8	27.6	27.5	27.1	24.9	22.5	20.3
9	20.8	20.6	20.5	21.4	22.6	24.6	27.4	27.3	26.9	24.7	22.3	20.1
10	20.6	20.4	20.3	21.2	22.4	24.4	27.2	27.1	26.7	24.5	22.1	19.9
11	20.4	20.2	20.1	21.0	22.2	24.2	27.0	26.9	26.5	24.3	21.9	19.7
12	20.2	20.0	19.9	20.8	21.9	23.9	26.8	26.7	26.3	24.1	21.7	19.5

●潮流

渡嘉敷、座間味島周辺の潮流については、第11管区海上保安本部が調査した慶良間海峡付近海潮流観測報告¹¹があるが、これによるとこの海峡付近には小さな島々が点在し、複雑な流況を呈するが、おおむね高潮時には北流になり、低潮時には南流となることが報告されている。また、同海域の最強流速図を図-1に示したが、これによると、1.5kt以上流れる海域、いわゆる水道がいたるところに存在することも報告されている。

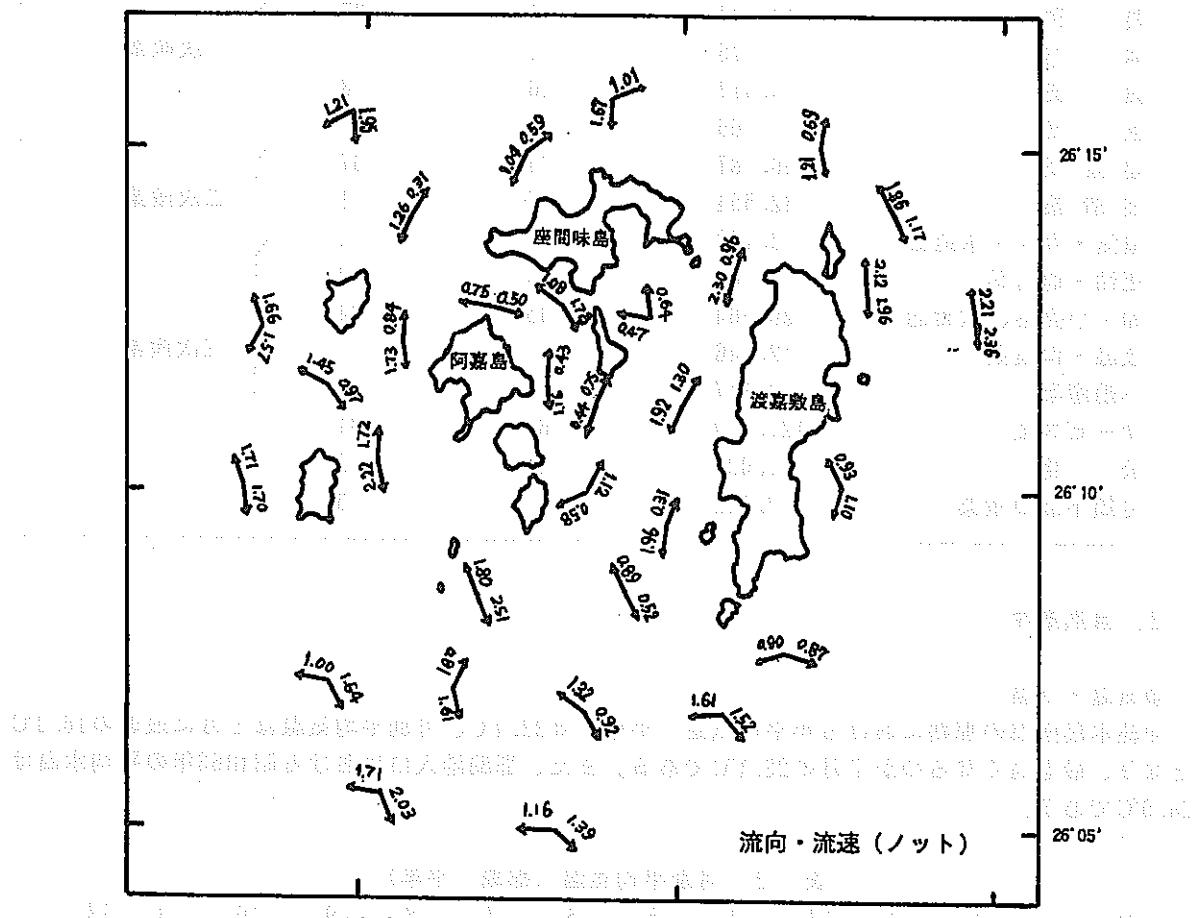


図-1 慶良間列島周辺の最強流図